心灵鸡汤双语读物　　中日对照版

BIG MOUTH

あなたの一生に大きな感動を与えた日本語

感动你一生的日文

——杂文百感

寇祺明 编著

中国宇航出版社

心灵鸡汤双语读物

BIG MOUTH

あなたの一生に大きな感動を与えた日本語

感动你一生的日文

——杂文百感

寇祺明 编著

中国宇航出版社
·北京·

版权所有　侵权必究

图书在版编目(CIP)数据

感动你一生的日文：杂文百感/寇祺明编. —北京：中国宇航出版社，2006.8

ISBN 7-80144-274-1

Ⅰ. 感…　Ⅱ. 寇…　Ⅲ. ①小说—作品集—日本　②散文—作品集—日本　Ⅳ. I313.11

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2006)第 050565 号

策划编辑　凌　子　　**封面设计**　异类设计工作室
责任编辑　凌　子　　**责任校对**　于　慧

出　版
发　行　中国宇航出版社
社　址　北京市阜成路 8 号　　**邮　编**　100830
(010)68768548
网　址　www.caphbook.com/www.caphbook.com.cn
经　销　新华书店
发行部　(010)68371900　　(010)88530478(传真)
(010)68768541　　(010)68767294(传真)
零售店　读者服务部　　北京宇航文苑
(010)68371105　　(010)62529336
承　印　北京智力达印刷有限公司
版　次　2006 年 8 月第 1 版　　2006 年 8 月第 1 次印刷
规　格　880×1230　　**开　本**　48
印　张　6　　**字　数**　194 千字
书　号　ISBN 7－80144－274－1
定　价　15.80 元

本书如有印装质量问题，可与发行部调换

前　言

“读万卷书，行万里路”。

一本好书，一篇美文，总会让您从中学习到很多东西，犹如游历一样，使人开阔眼界，增长知识。尤其是在阅读原版外国文学的时候，更能帮助我们了解异国风土人情、文化习俗，乃至他们的思想方式、见解观念，以及如何面对现实生活的启示。当然，用日汉对照的方式来读，既学内容又学语言，更是一箭双雕。这正是我们编选本套书的一个主要目的。

本套丛书是专为大中学生及日语爱好者而设计的双语心灵读物。共三个分册，即《感动你一生的日文——爱与人生》，《感动你一生的日文——经典美文》，《感动你一生的日文——杂文百感》。其中《爱与人生》多节选于日本小说与散文，讲述的是爱与人生的哲学与思想，或许能让您有所感悟；《经典美文》多节选自世界文学名著的日文版，从中你可以发现很多已被您熟知的篇章；《杂文百感》多选自各种杂文、小品文，清新别致，读来或许令您别有一番体味。

本套丛书尽量做到所收篇目均为脍炙人口的名篇佳作和时下流行的文学作品。无论是大地风物的描绘还是

社会生活的写照，无论是时代声音的记录还是人生情感的抒写，可让您获得一些愉悦和美的享受；可让您在一种优美的语言交融中不知不觉地体会到日语水平的提升和长进；让您的一天沉浸在美好的语言韵律中；让您刚刚读过的优美篇章、精彩句子在慢慢积累、消化、吸收中，成为自己的知识。

本丛书在编写的过程中，得到了于慧小姐和西岛美织小姐的大力帮助，在此表示感谢。

一个故事可以影响一个人的一生，一个哲理可以改变千万人的命运。谨以本套丛书献给那些深爱家人与朋友、有追求、有梦想、有渴望、对生活有激情、对日语学习有热情的兄弟姐妹们。

编者

2006 年 7 月

于北京公寓

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目　录

1. 我輩は猫である

我是猫 …… (1)

2. 傘

伞 …… (5)

3. ガタガタだよ

已经破破烂烂了 …… (10)

4. やっぱり上野ですか

还是上野啊 …… (13)

5. 去年校長を辞めました

去年辞去了校长职务 …… (17)

6. どこかからだの具合でも

是不是哪儿不舒服 …… (20)

7. 二番目のご質問は

第二个问题是 …… (23)

8. 携帯電話

手机 …… (26)

9. 団塊の世代

团块的一代 …… (30)

10. 桜の季節

樱花的季节 …… (34)

11. 藤野先生

藤野先生 …… (38)

12. 特価招待券

特价招待券 …… (43)

13.「借金とり」と「鳥」

“借钱”与“鸟” …… (49)

14. 半分は私にもなぐられる栄誉をください

请把老拳也分给我一半吧 …… (53)

15. ここはあんたの家じゃないんだよ

这儿不是你的家 …… (57)

16. 咳払い

咳嗽 …… (61)

17. 馬が合う

合得来 …… (66)

18. 真夏の夢

仲夏的梦 …… (72)

19. 秋夜

秋夜 …… (77)

20. 鼻

鼻子 …… (84)

21. 猫の事務所

猫的事务所 …… (88)

22. 失われたよき地獄

失去的好地狱 …… (94)

23. 名前はなんといったっけ

你叫什么来着 …… (99)

24. 南回帰線

南回归线 …… (103)

25. 幸福の道

幸福之路 …… (107)

26. 太陽路

太阳路 …… (114)

27. 魔王

魔王 …… (121)

28. 海へのあいさつ

赞海 …… (125)

29. 学生の家

学生的家 …… (131)

30. 烏帽子山麓の牧場(一)

乌帽子山麓的牧场(一) …… (138)

31. 烏帽子山麓の牧場(二)

乌帽子山麓的牧场(二) …… (144)

32. 一房の葡萄

一串葡萄 …… (151)

33. 貧しき人々の群・序にかえて

贫穷的人们・代序 …… (156)

34. 貧しき人々の群

贫穷的人们 …… (161)

35. 禰宜様宮田

宮田神官 …… (167)

36. 獄中への手紙

写给狱中人的信 …… (172)

37. 月夜(一)

月夜(一) …… (180)

38. 月夜(二)

月夜(二) …… (184)

39. 月夜(三)

月夜(三) …… (188)

40. ひとすじの道(一)

一条路(一) …… (192)

41. ひとすじの道(二)

一条路(二) …… (196)

42. ひとすじの道(三)

一条路(三) …… (201)

43. ひとすじの道(四)

一条路(四) …… (206)

44. 春の鳥(一)

春鸟(一) …… (211)

45. 春の鳥(二)

春鸟(二) …… (216)

46. 夢十夜・第二夜(一)

第十夜・第二夜(一) …… (220)

47. 夢十夜・第二夜(二)

第十夜・第二夜(二)…… (224)

48. 伊豆の旅

伊豆之旅…… (228)

49. シャーロック・ホームズ

福尔摩斯…… (233)

50. 千曲川旅情の歌

千曲川旅情之歌…… (237)

51. 路傍の雑草

路边的杂草…… (240)

52. 生まれいずる悩み(一)

诞生的烦恼(一)…… (246)

53. 生まれいずる悩み(二)

诞生的烦恼(二)…… (250)

54. 劉和珍君を記念する

纪念刘和珍君…… (255)

55. 故郷

故乡…… (256)

56. ある小さなこと

一件小事…… (257)

57. 春への地下鉄

开往春天的地铁…… (260)

58. きれいなお母さん

漂亮妈妈…… (261)

59. 早春の二月

早春二月 …… (262)

60. 柳保の物語

柳堡的故事 …… (264)

61. 臥虎藏竜

卧虎藏龙 …… (265)

62. 刮痧

刮痧 …… (266)

63. 林家舗子

林家铺子 …… (268)

64. 優しい心

一曲柔情 …… (269)

65. 溜め息

一声叹息 …… (270)

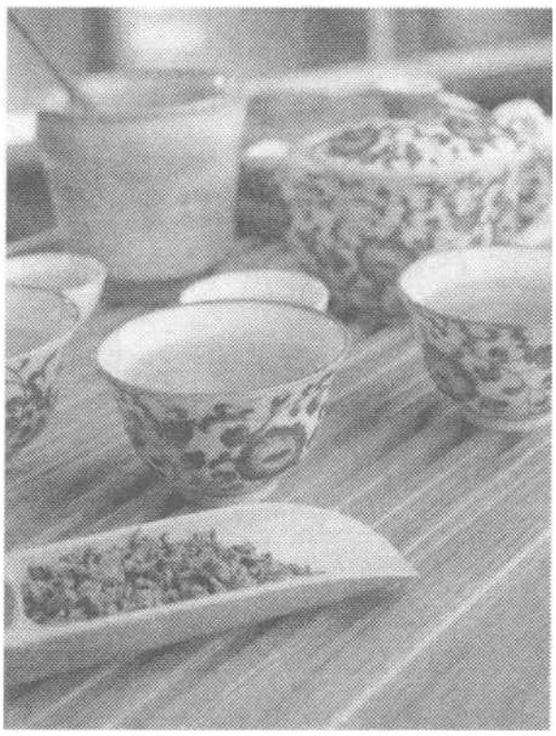
66. 五輪の金花

五朵金花 …… (272)

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

1. 我輩は猫である

我是猫



吾輩(わがはい)は猫(ねこ)である。名前(なまえ)はまだ無(な)い。

どこで生(う)れたかとんと見当(けんとう)がつかぬ。何(なん)でも薄暗(うすぐら)いじめじめした所(ところ)でニャーニャー泣(な)いていた事(こと)だけは記憶(きおく)している。吾輩(わがはい)はここで始(はじ)めて人間(にんげん)というものを見(み)た。しかも、あとで聞(き)くとそれは書生(しょせい)という人間(にんげん)中(じゅう)で一番(いちばん)獰悪(どうあく)な種族(しゅぞく)であったそうだ。この書生(しょせい)というのは時々(ときどき)我々(われわれ)を捕(つかま)えて煮(に)て食(く)うという話(はなし)である。しかし、その当時(とうじ)は何(なに)という考(こう)もなかったから別(べつ)

段恐しいとも思わなかった。ただ彼の掌に載せられてスーと持ち上げられた時、何だかフワフワした感じがあったばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見始であろう。この時、妙なものだと思った感じが今でも残っている。毛をもって装飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶だ。その後猫にもだいぶ逢ったがこんな片輪には一度も出会わした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そうしてその穴の中から時々ぷうぷうと煙を吹く。どうも咽せぽくて実に弱った。これが人間の飲む煙草というものである事はようやくこの頃知った。

この書生の掌の裏でしばらくはよい心持に坐っておったが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗に眼が廻る。胸が悪くなる。到底助からないと思っていると、どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

ふと気が付いて見ると書生はいない。たくさんおった兄弟が一匹も見えぬ。肝心の母親さえ姿を隠し

てしまった。その上今までの所とは違って無暗に明るい。眼を明いていられぬくらいだ。はてな何でも様子がおかしいと、のそのそ這い出して見ると非常に痛い。吾輩は藁の上から急に笹原の中へ棄てられたのである。

关键词汇

見当がつかぬ——无法估计，猜不出来
獰悪——粗暴，凶恶
咽せぽい——令人窒息，呛得慌
無暗——（不假思索地）胡乱，随便
速力——速率，速度
肝心——首要，重要，紧要
様子——情况，状态，表情，样子
笹原——矮竹丛生的原野
掌——手掌
装飾——装饰
書生——学生

参考译文

咱(zá)家是猫。名字嘛……还没有。
哪里出生？压根儿就搞不清！只恍惚记得好像在一

个阴湿的地方咪咪叫。在那儿，咱家第一次看见了人。而且后来听说，他是一名寄人篱下的穷学生，属于人类中最残暴的一伙。相传这名学生常常逮住我们炖肉吃。不过当时，咱家还不懂事。倒也没觉得怎么可怕。只是被他嗖的一下子高高举起，总觉得有点六神无主。

咱家在学生的手心稍微稳住神儿，瞧了一眼学生的脸，这大约便是咱家平生第一次和所谓的“人”打个照面了。当时觉得这家伙可真是个怪物，至今仍然印象深刻。单说那张脸，本应用毫毛来妆点，却油光崭亮，活像个茶壶。其后咱家碰上的猫不算少，但是，像他这么不周正的脸，一次也未曾见过。况且，脸心儿鼓得太高，还不时地从一对黑窟窿里咕嘟嘟地喷出烟来。太呛得慌，可真折服了。如今总算明白：原来这是人在吸烟哩。

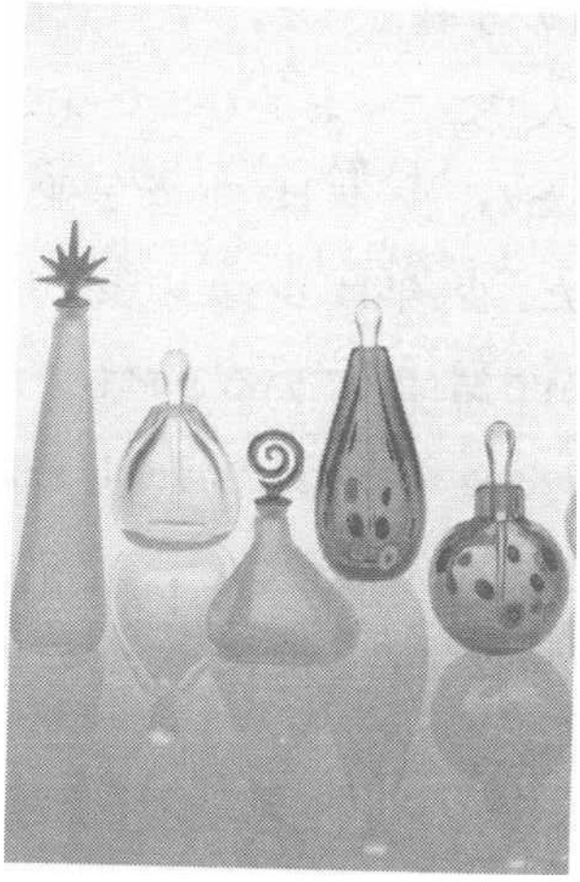
咱家在这名学生的掌心暂且舒适地趴着。可是，不大工夫，咱家竟以异常的快速旋转起来，弄不清是学生在动，还是咱家自己在动，反正迷糊得要命，直恶心。心想：这下子可完蛋喽！又咕咚一声，咱家被摔得两眼直冒金花。

只记得这些。至于后事如何，怎么也想不起来了。

蓦地定睛一看，学生不在，众多的猫哥们儿也一个不见，连咱家的命根子——妈妈也不知去向。并且，这儿和咱家过去待过的地方不同，贼拉拉地亮，几乎不敢睁眼睛。哎哟哟，一切都那么稀奇古怪。咱家试着慢慢往外爬，浑身疼得厉害，原来咱家被一下子从稻草堆上摔到竹林里了。

2. 傘

伞



ぬれはしないが、何とはなしに肌の湿る、霧のような春雨だった表に駆け出した少女は、少年の傘を見て初めて。

「あら?雨なのね。」

しかし、少年は黙って少女の体に傘をさしかけ

てやつた。少女は片一方の肩だけを傘に入れた。少女は自分も片手を傘の柄に持ち添えたいと思いながら、しかも傘の中から逃げ出しそうにばかりしていだ?

二人は写真屋に入った。少年の父の官吏が遠く転任する別れの写真だった。

どうぞお二人でここへお並びになってと、写真屋は長椅子を指したが、少年は少女と並んで坐ることができなっかた。少年は少女の後ろに立って、二人の体がどこかで結ばれているとおもいたいために、椅子を握った指を軽く少女の羽織に触れさせた。少女の体に触れた始めだった。

一生この写真を見る度に、彼女の体温を思い出すだろう。

「もう一枚いかがでしよう。お二人でお並びになったところを、上半身を大きく。」

少年はただうなづいて。

「髪は?」と、少女に小声で言った?少女はひよいと少年を見上げて頬を染めると、明るい喜びに眼に輝かせて、子供のように、素直に、ばたばたと化粧室走っていった。

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com